

令和7年3月27日
総合支援課

令和6年度 心のアンケートの結果について

1 目的

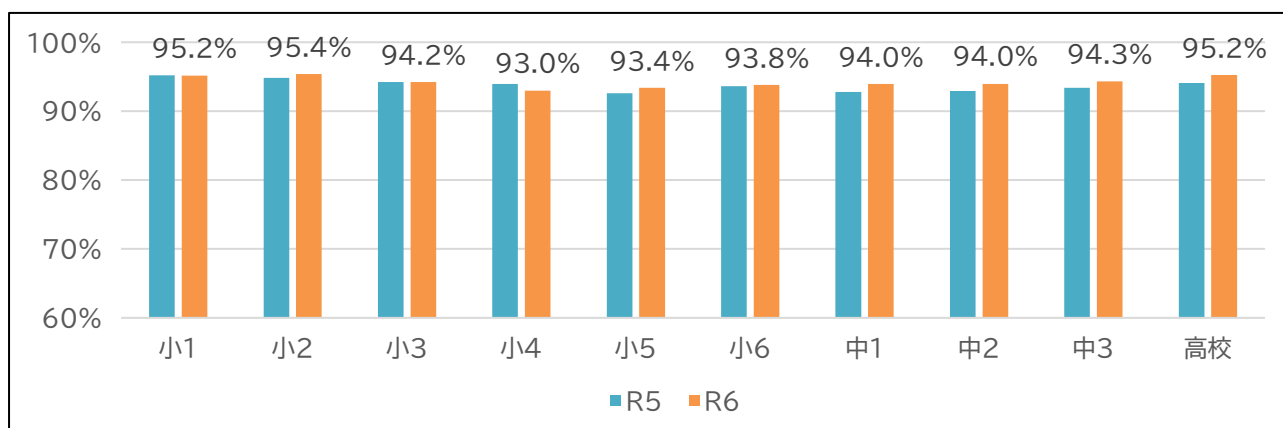
「熊本市いじめ防止等基本方針」に基づく「いじめの防止等（いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処をいう。以下同じ。）のために本市が実施する施策」として、熊本市立小中高等学校及び特別支援学校の児童生徒を対象にして、無記名のアンケート調査を実施することにより、各学校が児童生徒の思いに寄り添い、いじめのない、すべての児童生徒が安心して、楽しく学校生活を過ごせる学校づくりに取り組むとともに、教育委員会におけるいじめの防止等のための具体的な対応策を検討・実施する資料とする。

2 調査期間 令和6年12月2日～12月末日

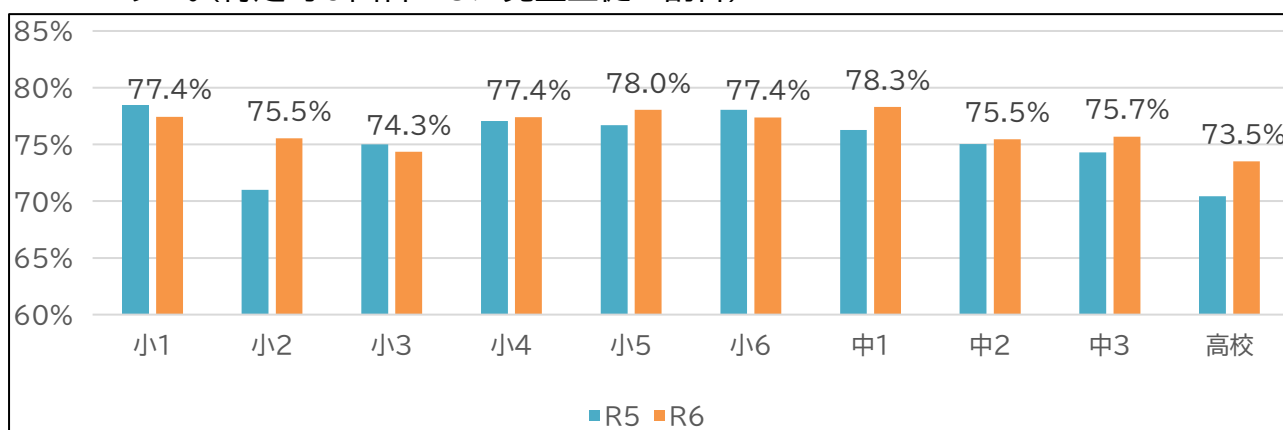
3 調査対象 熊本市立小中高等学校・特別支援学校のすべての児童生徒 (小学生:39,773人、中学生:19,856人、高校生:1,617人)

4 調査結果

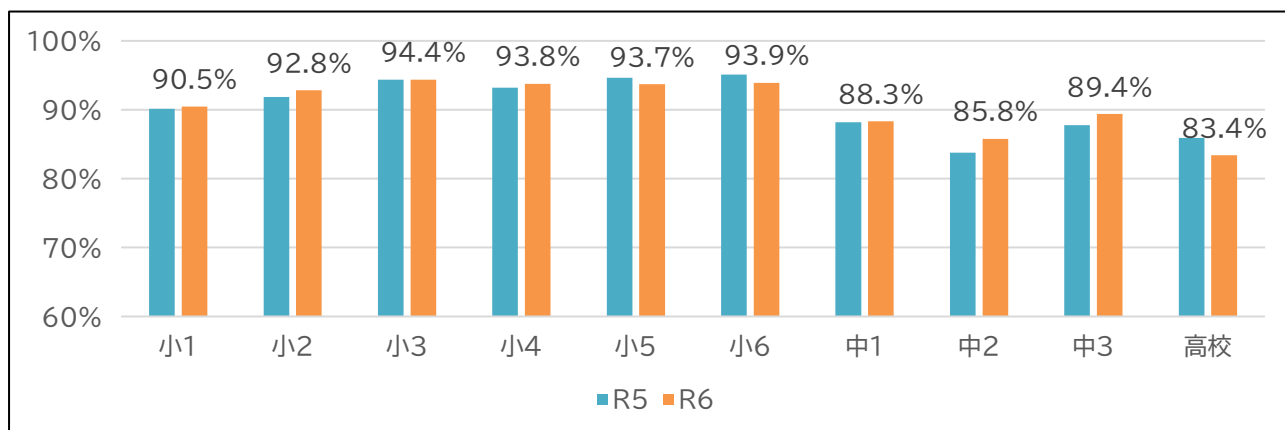
【問1】学校は楽しいですか。（肯定的【楽しい、まあまあ楽しい】な回答をした児童生徒の割合）



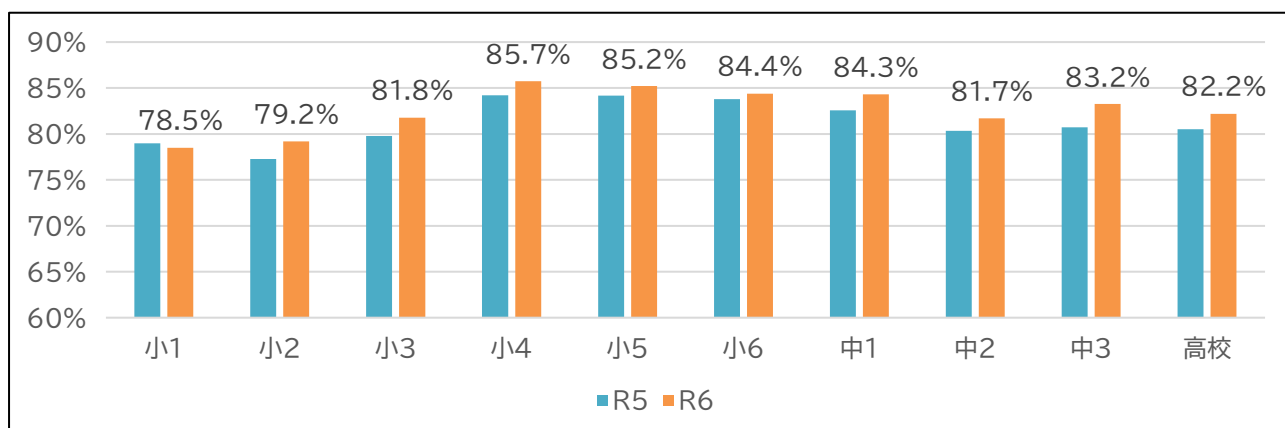
【問2】授業や学級の役割など、学校生活の中で誰かの役に立っていると感じることはありますか。（肯定的な回答をした児童生徒の割合）



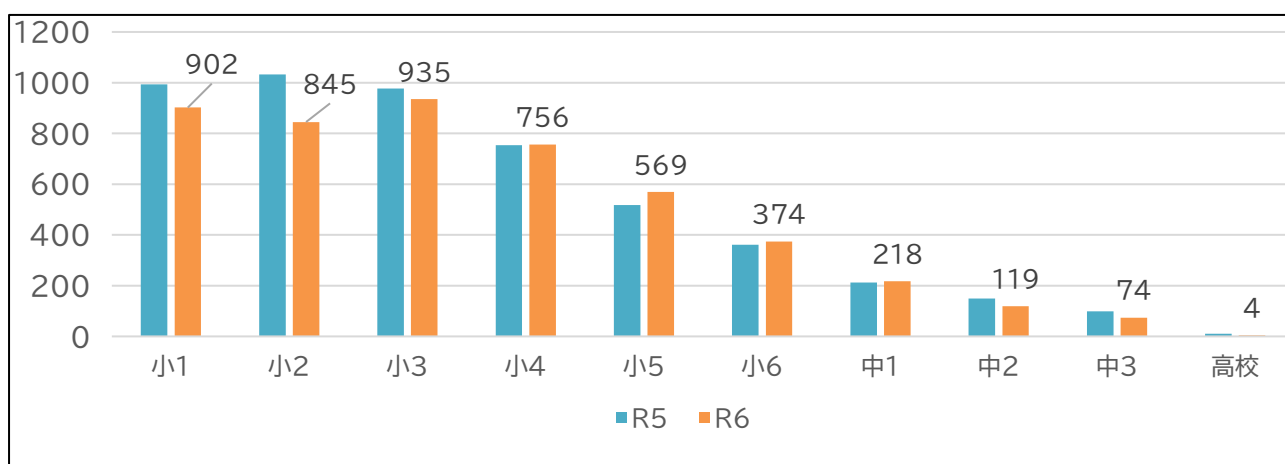
【問3】 授業はよくわかりますか。(肯定的な回答をした児童生徒の割合)



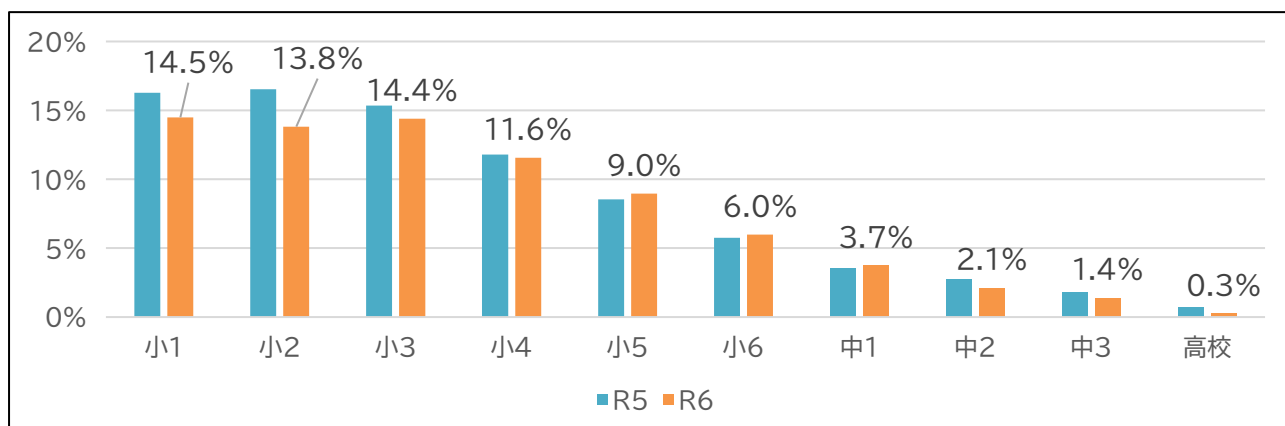
【問4】 スポーツや音楽、趣味など、自信のあることや自慢できるものがありますか。
(肯定的な回答をした児童生徒の割合)



【問5】 今の学年でいじめられたことがありますか。(あると答えた人数)



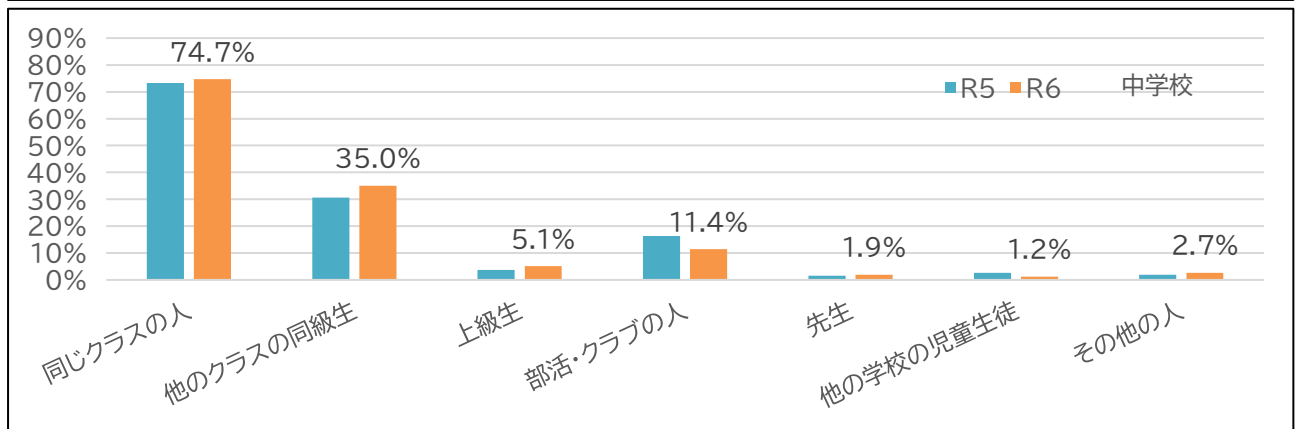
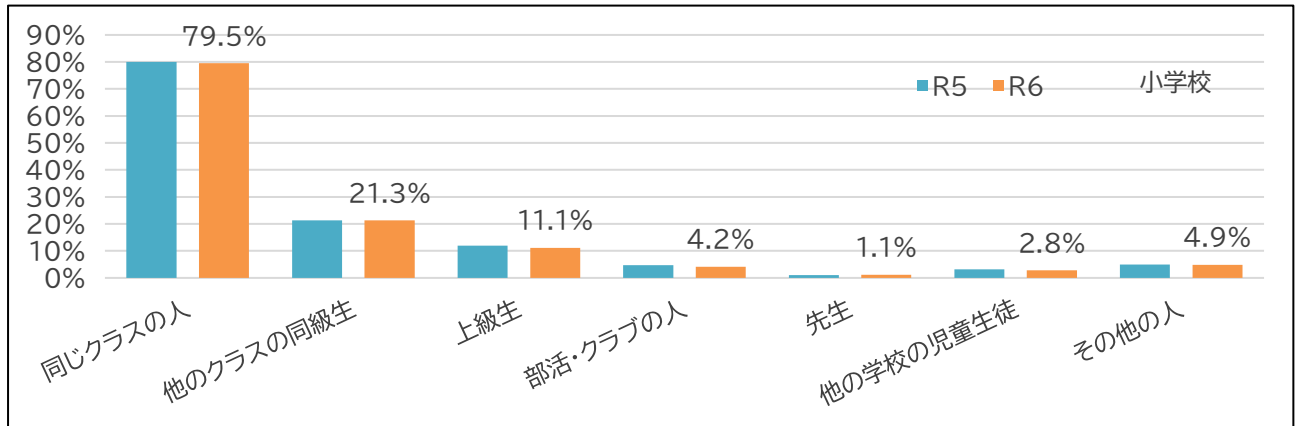
今の学年でいじめられたことがありますか。(あると答えた割合)



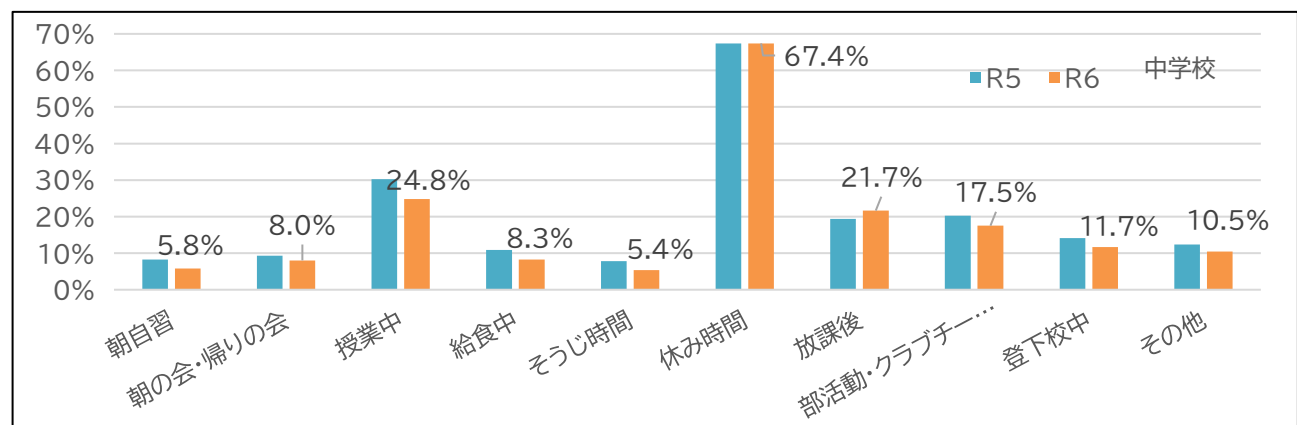
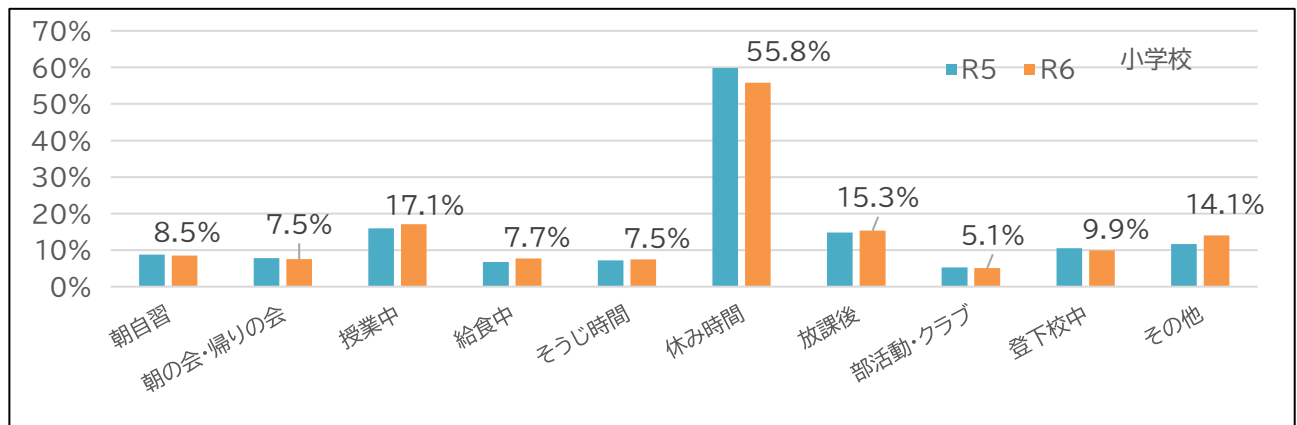
【問6～問13】は【問5】のいじめられたことがあると答えた児童生徒
(小学校 4381人、中学校411人)を対象とした割合

※高校は対象生徒が少ないため結果から省いている。

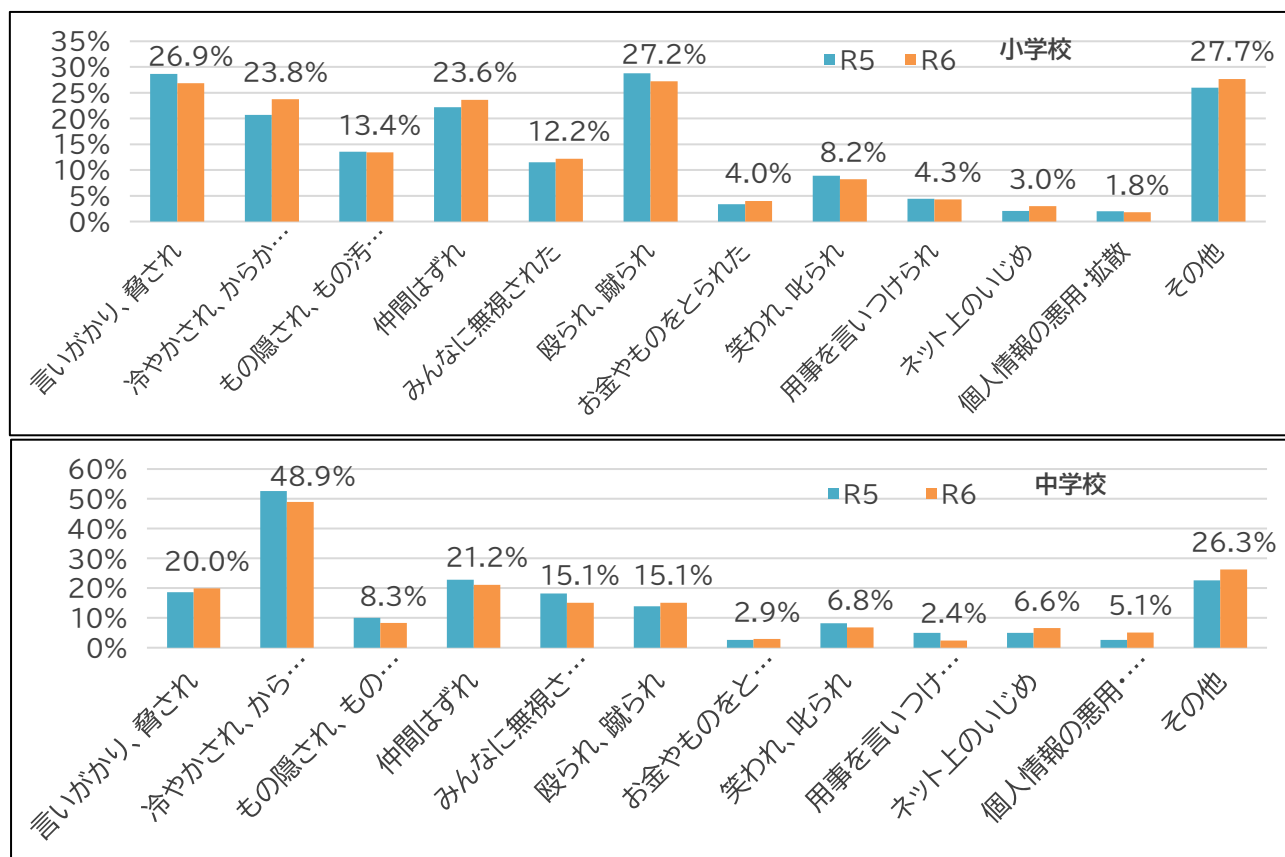
【問6】 誰からいじめられましたか。※複数回答



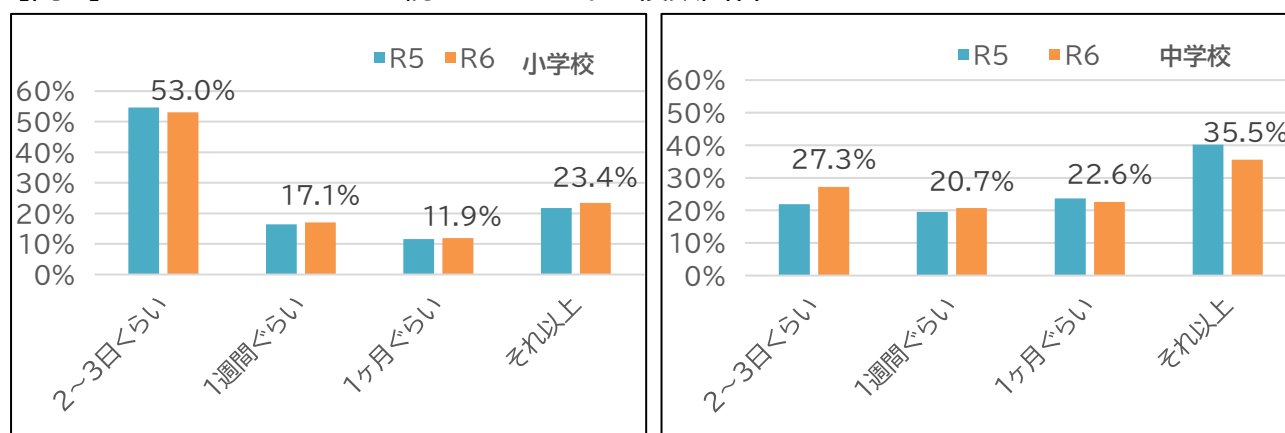
【問7】 いじめがどのような場面で起こりましたか。※複数回答



【問8】 どのようないじめを受けましたか。※複数回答

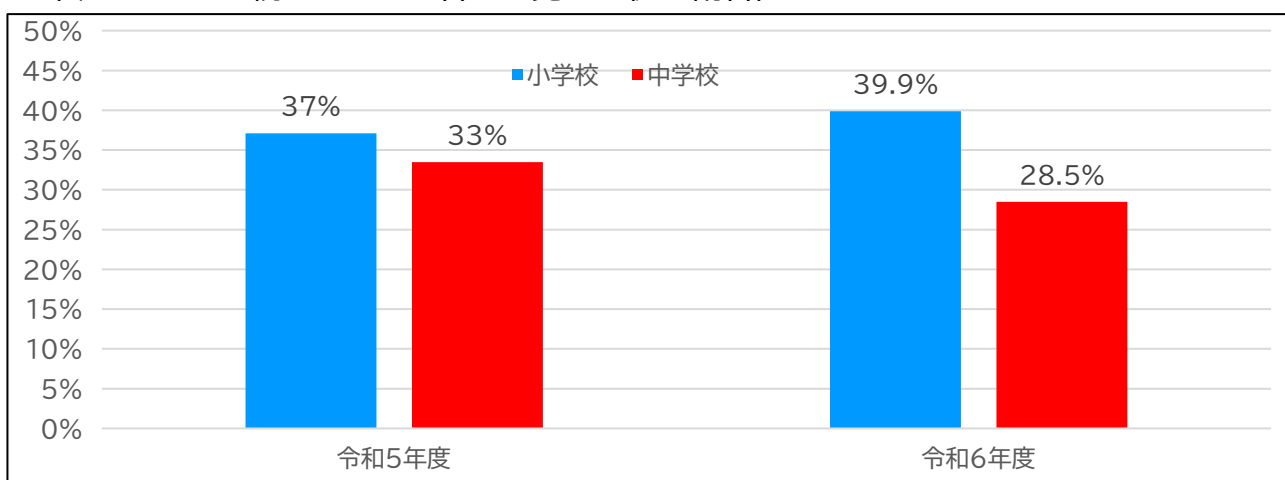


【問9】 いじめはどのくらい続きましたか。※複数回答

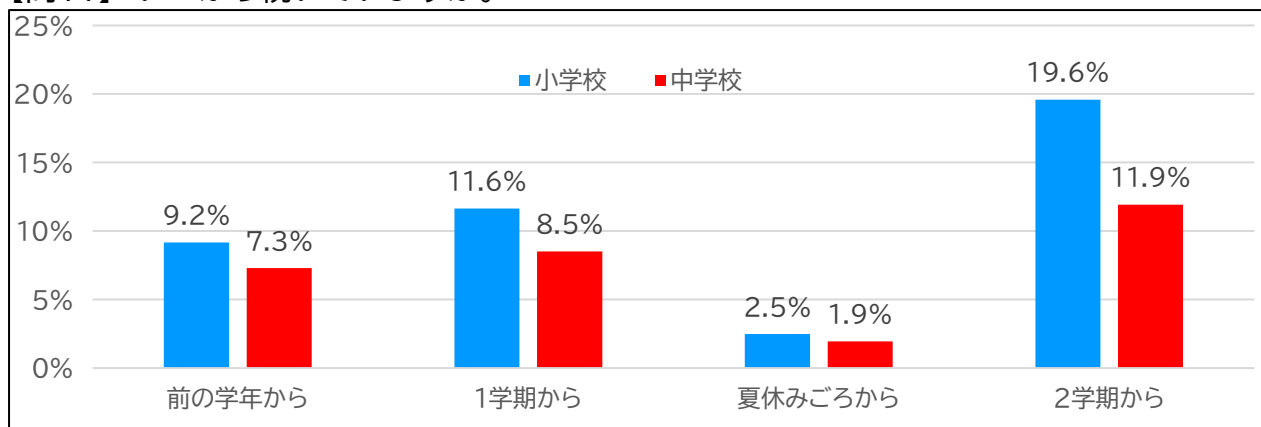


【問10】 今もいじめは続いていますか。

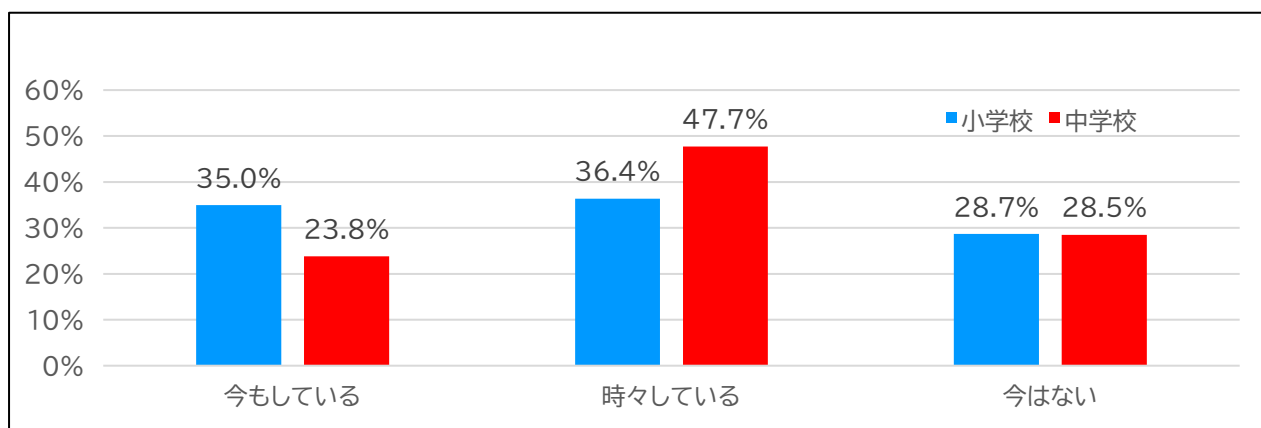
(今もいじめが続いていると答えた児童生徒の割合)



【問11】 いつから続いていますか。

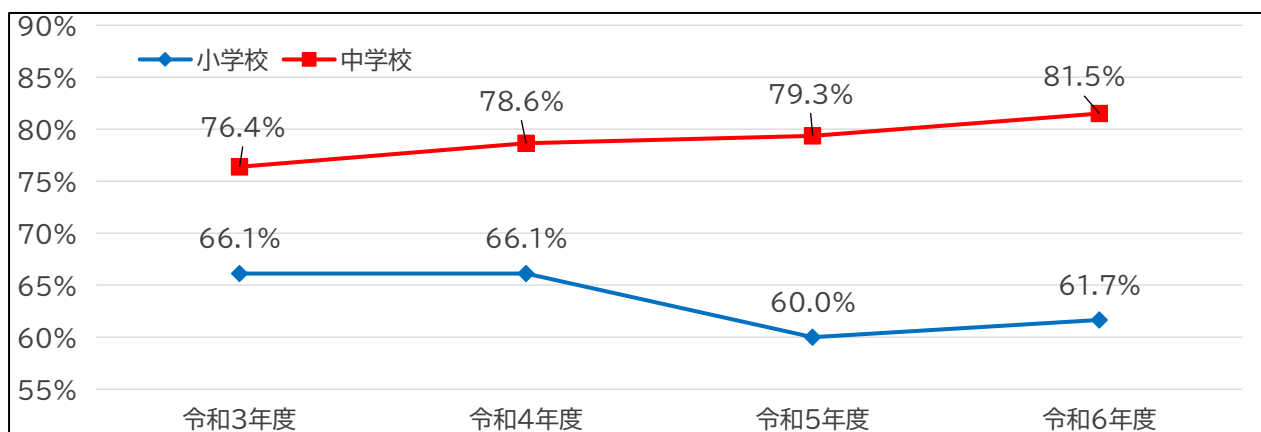


【問 12】 今でもいやな思いをしていますか。



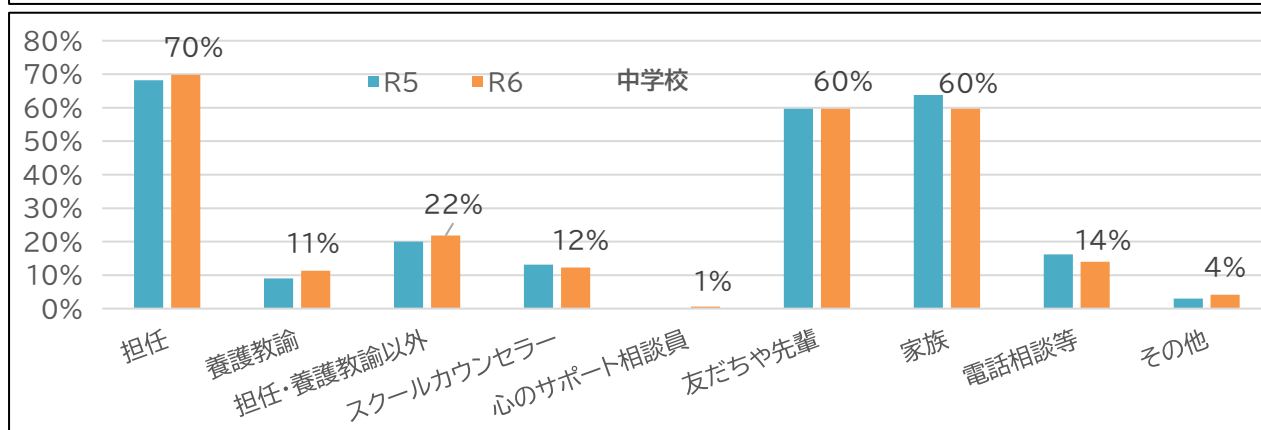
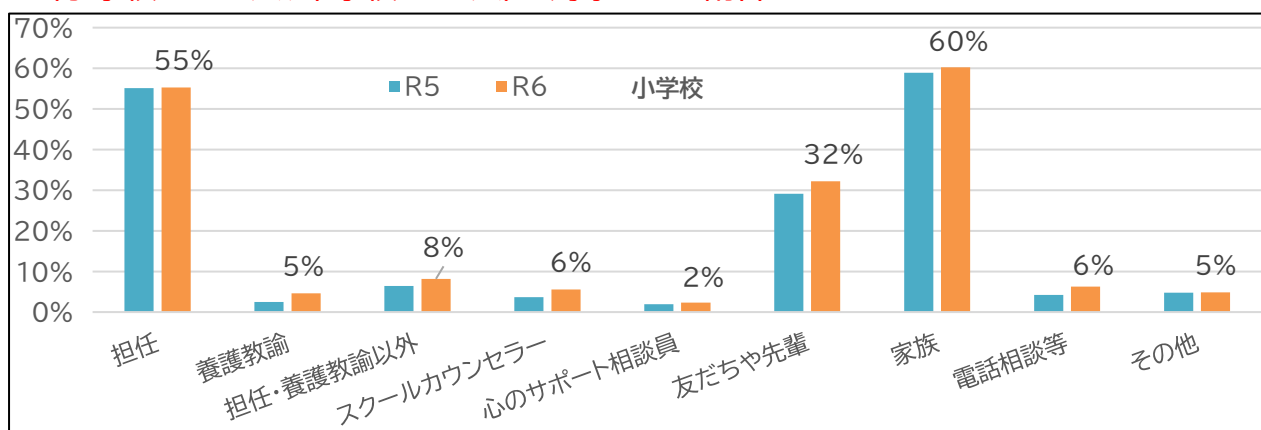
【問 13】 いじめられたことを誰かに話をしましたか。

(いじめられたことを誰かに話したと答えた生徒の割合)

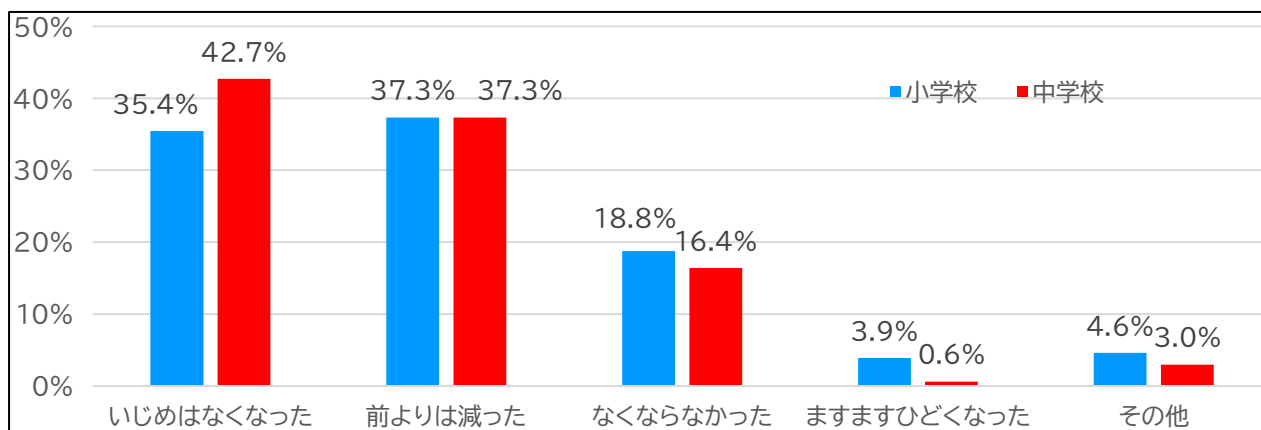


【問14】 誰に話をしましたか。※複数回答

【問13～問15】は【問13】のいじめについて誰かに話したと答えた児童生徒
(小学校2701人、中学校335人)を対象とした割合

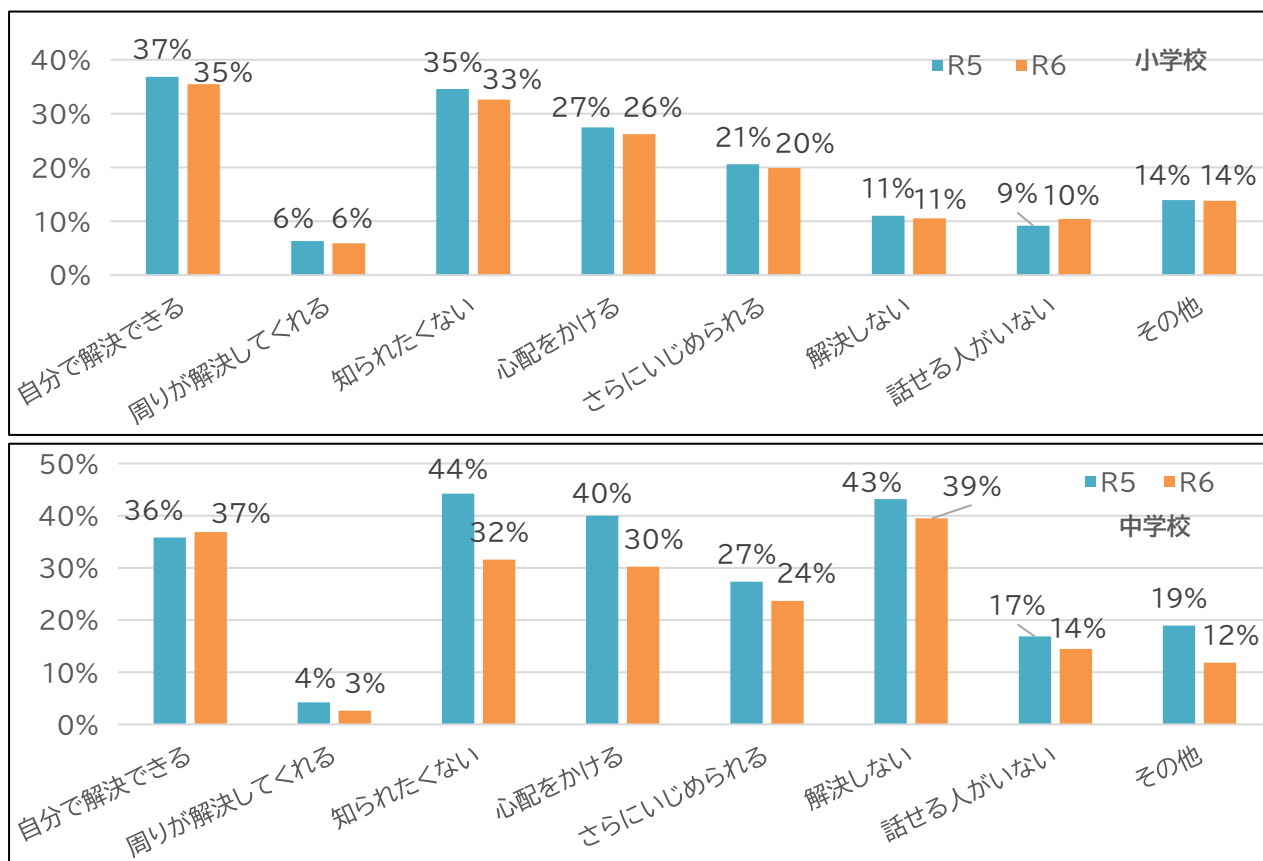


【問15】 話した結果どうなりましたか。

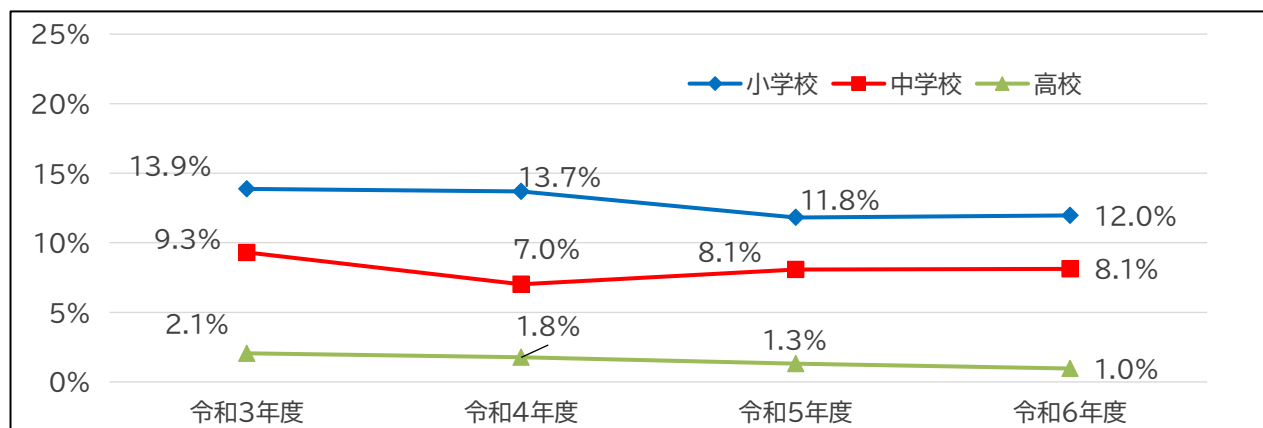


【問16】 なぜ話をしなかったのですか。※複数回答

【問16】は【問13】のいじめのことについて誰にも話していないと答えた児童生徒
(小学校1680人、中学校76人)を対象とした割合

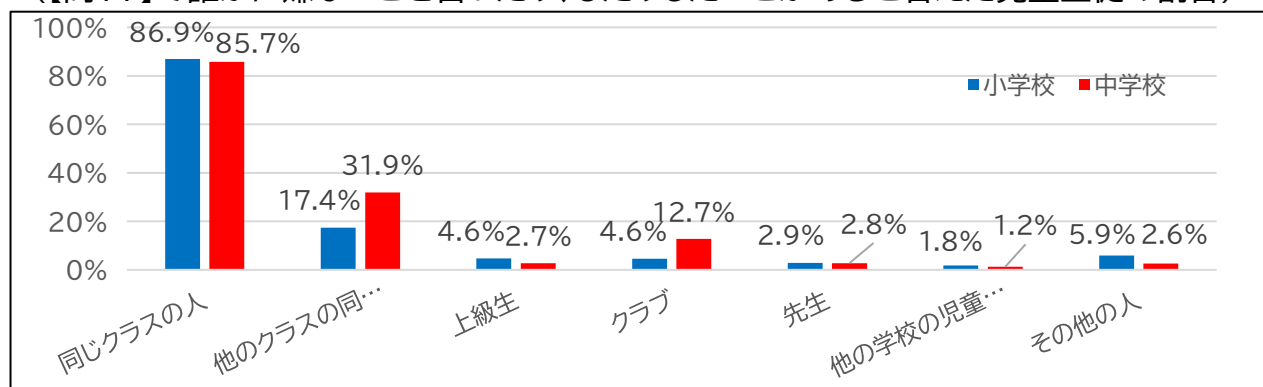


【問17】 今の学年になって誰かに嫌なことを言ったり、したりしたことがありますか。
(嫌なことを言ったり、したりしたことがあると答えた児童生徒の割合)



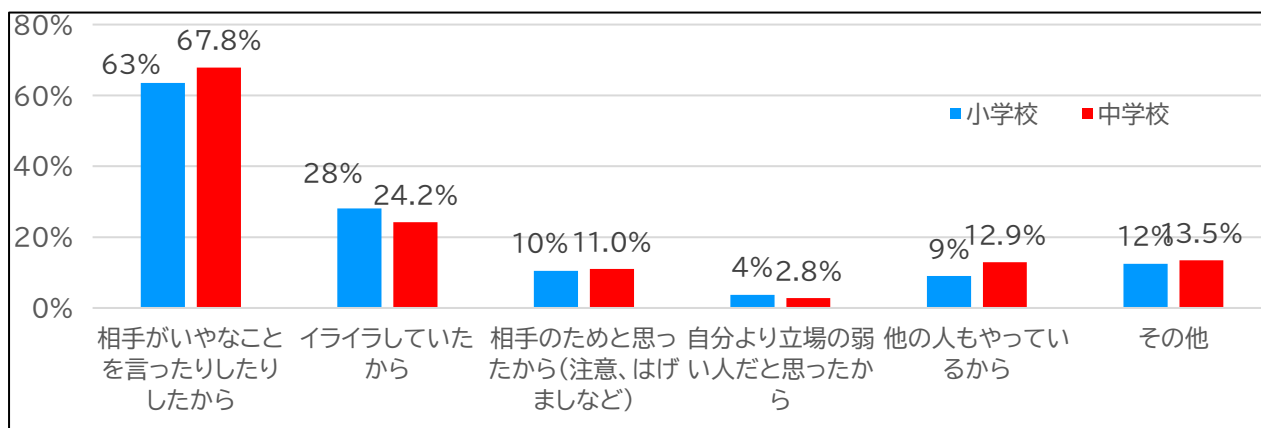
【問18】 誰にいやなことを言ったり、したりしたか。※複数回答

(【問17】で誰かに嫌なことを言ったり、したりしたことがあると答えた児童生徒の割合)



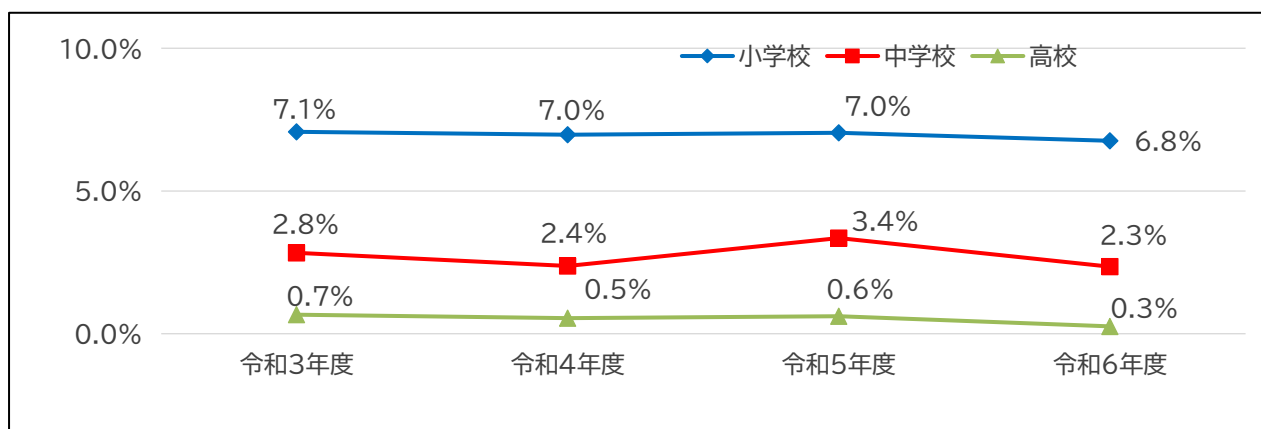
【問19】 なぜ相手がいやと思うようなことを言ったり、したりしたのか。

(【問17】で誰かに嫌なことを言ったり、したりしたことがあると答えた児童生徒の割合)



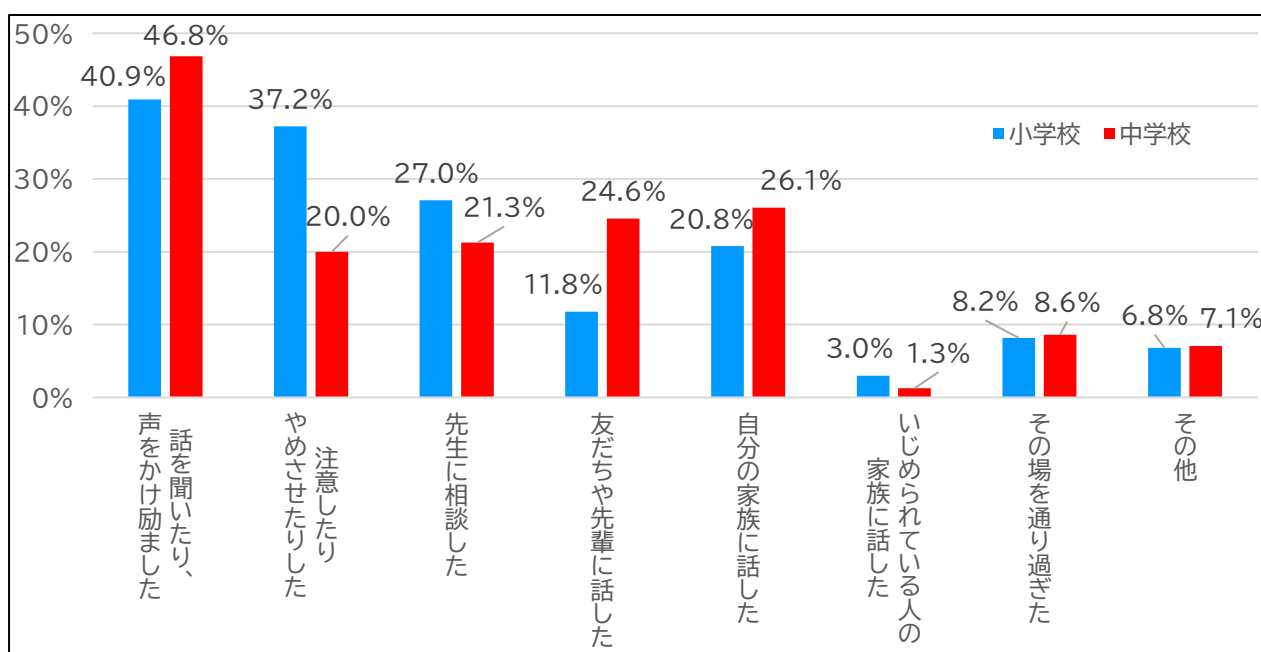
【問20】 今の学年になって誰かがいじめられているのを見たり、聞いたりしたことがありますか。

(いじめを見たり、聞いたりしたことがあると答えた児童生徒の割合)

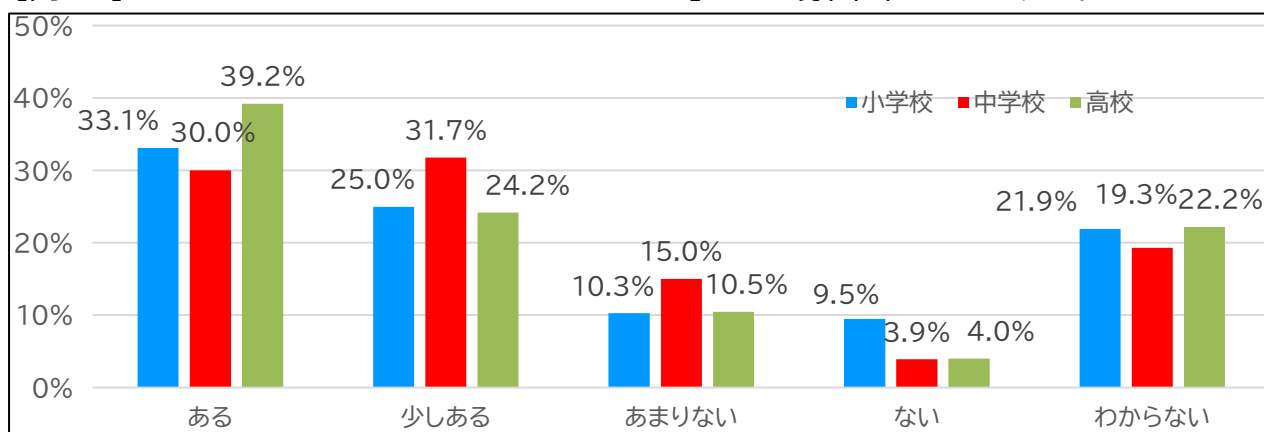


【問21】 いじめを見たり、聞いたりしたとき、どうしましたか。※複数回答

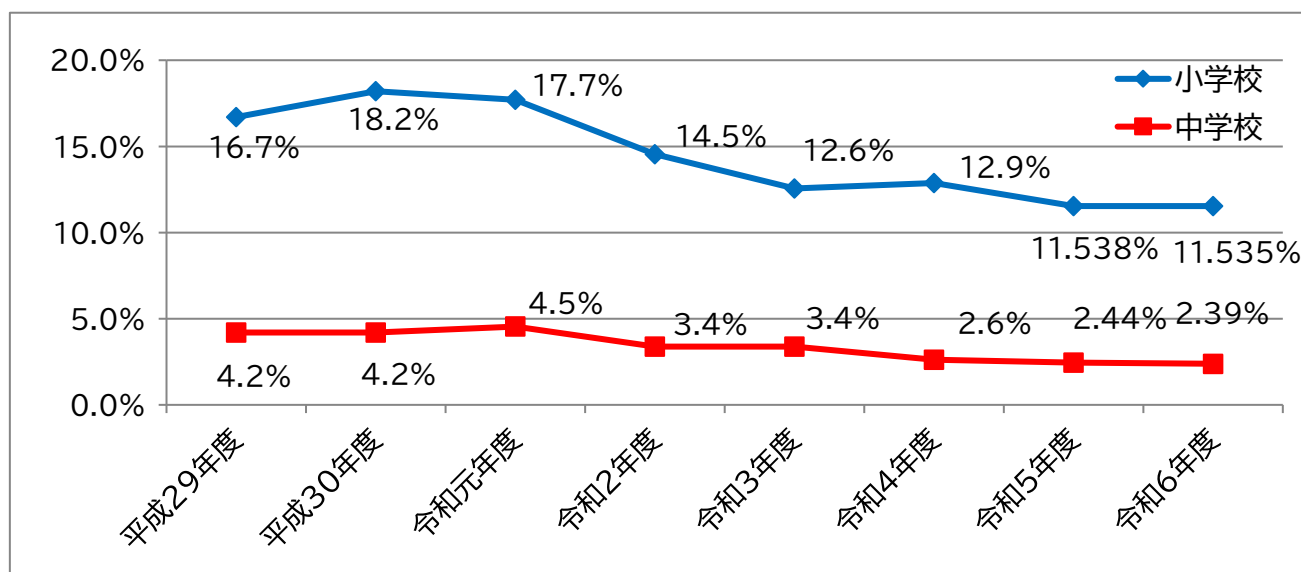
(【問20】でいじめられているのを見たり、聞いたりしたことがあると答えた児童生徒の割合)



【問22】 あなたのクラスに「いじめをゆるさない」という雰囲気はありますか。



5 アンケート結果の考察と課題解決に向けた取り組み



【問5】「今の学年でいじめられたことがありますか。」の質問について、平成29年度から8年間の経過を表すと徐々にいじめを訴える児童生徒の割合が減少していることがわかる。これは、学校にいじめ防止対策推進法の定義に基づくいじめ認知が広がり、いじめの積極的認知と対応及び未然防止に向けた取り組みの充実が進んだ結果であると考えられる。

【問22】『あなたのクラスに「いじめを許さない」という雰囲気はありますか。』という質問では、「ある」「少しある」の合計はどの校種も約6割だった。「わからない」の数はどの校種においても約2割おり、いじめの問題を自分事として捉えていないことが考えられる。

毎年行っているきずなを深める月間で、いじめを起こさないために自分たちができること、いじめが起きたときに自分たちができることの事例をもとに考え、対話を通して学ぶ場を設定するよう各学校に周知を行い、いじめを許さない環境づくりをすすめる。

また、今年度こどもの権利サポートセンターが、公益社団法人子どもの発達科学研究所と取り組んでいる「いじめ未然防止ゲーム」の授業を中学校2校、小学校6校で実施した。令和7年度も連携して取り組んでいく予定である。

【問13】【問16】いじめられたことを誰にも相談していないと答えた児童生徒のうち「自分で

解決できる」「周りが解決してくれる」以外の理由を選択した「相談したくてもできなかった児童生徒」は、小学校1265人(昨年度1310人)、中学校65人(昨年度79人)いる。

相談したくてもできない児童生徒が、小中学校ともにいることに課題意識を持ってもらうため、いじめ不登校対策ハンドブックで周知を行う。また、相談機関の周知を図り、悩みを抱える児童生徒が相談しやすい環境を整える。

毎月行う「きずなアンケート」の確実な実施の徹底を図り、SCやSSWとの連携を促す。また、「心のきずなを深める月間」で各学校に実施を依頼している「SOS の出し方に関する教育」の推進や、熊本市教育センター研究員が作成した「不登校児童生徒の社会的自立を目指した支援のあり方」の資料について、各学校に積極的な活用を促し、相談したくても相談できない児童生徒を減らしていく。